

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：対象小学校における学習環境が改善される。 1. 住民によって校舎が設置されてから 17 年～20 年が経過し、老朽化による強度や安全性が心配されていた。ドンケオ小学校では、以前の半コンクリート半木造 1 教室と竹製 1 教室の計 2 教室から、3 教室のコンクリート校舎となり、教室数が 1 教室増え、教員数に関しても 2 名から 3 名へと増加した。プーカン小学校は、3 教室の木造校舎から、5 教室のコンクリート校舎となり、教室数が 2 教室増えた。これらにより、耐久性のある校舎が確保され、さらには、十分な広さの確保、ドンケオ小学校では 1 教員あたりが受け持つ学級数が減り、両校の学習環境が改善された。 2. トイレがなかった両校に、男児、女児、教員別のトイレが設置されたことで、衛生面が改善され、また、トイレが無いため学校に行きたくない等の、とりわけ女児の心理的負担が軽減された。 3. 村長または副村長、校長、村の女性同盟や青年同盟の代表で組織される村教育開発委員会と教員が「学校配置図」、「学校運営活動スケジュール」を作成したことで、校庭や植樹といった学校の環境整備、その運営に関する具体的な計画が作成された。また、学校清掃・トイレ研修会を実施し、「学校清掃・トイレの維持管理スケジュール」が作成されたことにより、学校環境への配慮やトイレの清掃、維持管理の意識づけも行われた。 4. 全てのモニタリングに教育行政官が同行し、建設工程に生じた問題解決に教育行政官が参画したことで校長、教員、住民、教育行政とのネットワークが構築された。これらにより、対象小学校における学習環境が改善されたことに加えて、継続して維持管理するための教育行政官、住民、校長、教員のネットワークの基盤が整い、学習環境が維持されている。
(2) 事業内容	(ア) ドンケオ小学校及びプーカン小学校の校舎建設、トイレ棟、給水タンクの設置及びプーカン村共同給水タンクの整備 ドンケオ小学校は、複式学級の運営に適した 3 教室のコンクリート校舎を、プーカン小学校は、5 教室及び職員室 1 室のコンクリート校舎を建設し、各教室には、備品（児童用 2 人掛け机と椅子 20 組、教員用机と椅子、本棚、黒板）を供与した。また、各学校にトイレ棟（3 室：男児、女児、教員用）と、雨水を給水源とする給水タンクを設置し、プーカン村の共同給水タンクの整備（給水枘及びパイプの設置）を行った。 (イ) 教員・住民代表が学校運営を行うための活動 本事業の全プロセスにかかわる住民組織として、教員と住民代表からなる「学校建設委員会」が設置された。この委員会により、学校建設の進捗の確認と住民への情報共有、木材調達のための森林局への申請書類準備と申請、また、土盛りといった住民が参加する建設作業が行われた。また、教員と村教育開発委員会によって「学校配置図」が作成された。また、学校運営研修会を実施し、どのように学校運営に取り組んでいくかを話し合い、「学校運営活動スケジュー

	ール」としてまとめた。 (ウ) 児童・教員・住民代表が学校施設の維持管理を行うための活動 教室の清掃の仕方およびトイレの使い方に関する、学校清掃・トイレ研修会を実施した。研修会では掃除等に必要な備品を供与し、児童、教員によって「学校清掃・トイレの維持管理スケジュール」が作成された。 (エ) 教育行政官が学校運営の助言を行うための活動 弊会が実施するモニタリングには、常に郡の教育行政官が同行し、適宜、住民や教員に助言をする様子が見えた。また、学校運営研修会を実施した際には、教育行政官から住民と教員に、定期的に校舎、備品のチェックをするようアドバイスしており、また教育行政官も、維持管理に協力することが合意された。
(3) 達成された成果	(ア) 安全・快適な校舎の建設により、隣の児童と接触することなく、児童が授業に集中できる学習環境が提供され、教員にとっても教えやすい環境となる。また、トイレ・給水施設の設置により衛生面も改善される。 ・ドンケオ小学校 複式学級の運営に適した3教室のコンクリート校舎を建設し、これにより、教室数が、2教室から3教室へと増え、児童1人当たりの平均教室床面積（ラオス政府による標準：1.05㎡）が0.75㎡から1.32㎡へと改善した。また、黒板を1教室に3枚設置するといった、複式学級に対応した教室となり、児童の学習環境と教員の授業環境が改善された。 ・プーカン小学校 5教室及び職員室1室のコンクリート校舎を建設し、これにより、教室数が3教室から5教室へと増え、児童1人当たりの平均教室床面積が、0.75㎡から1.12㎡へと改善した。また、以前の3教室から5教室に増加したことで、1学年1教室となり、児童の学習環境と教員の授業環境が改善された。 また、両学校には、児童が授業を受けるにあたり適切な数の机と椅子（ドンケオ小学校：児童用2人掛け机椅子20組×3教室、教員用机椅子1組×3教室／プーカン小学校：児童用2人掛け机椅子20組×5教室、教員用机椅子1組5教室）が設置された。全ての教室に本棚と黒板も設置（ドンケオ小学校：黒板3枚×3教室、本棚1架×3教室／プーカン小学校：黒板1枚×5教室・職員室、本棚1架×5教室・職員室）された。なお、ドンケオ小学校においては、同一教室内での複式学級の運営に配慮し、教室内に3枚の黒板を設置することで、教員が柔軟に授業を行えるようになった、 さらに、すべての教室の採光も工夫され、十分な光が入る教室となり、換気口も設置されたことから、室内の採光、空気の循環も改善され、児童の学習環境、教員の授業環境も改善された。 各学校にはトイレ棟（3室：男児、女児、教員用）と、雨水を給水源とする給水タンクを設置し、プーカン村では、共同給水タンク

	の整備（給水枡及びパイプの設置）を行った。両校で実施した、「学校清掃・トイレ研修会」を通じて、「学校清掃・トイレ維持管理スケジュール」の作成を行い、本スケジュールに基づき、トイレが継続的に清潔に保たれるようになり、衛生面も改善された。 （イ）住民が、主体的に学校運営に参加している。 学校運営研修会を実施し、ドンケオ村からは教員、住民合わせ 20 名が、プーカン村からは 12 名が参加し、「学校運営活動スケジュール」を作成した（詳細は別紙 4-1 へ）。このスケジュールが作成されたことで、住民の学校運営への参加の意識が高まり、作成されたスケジュールをもとに学校運営が行われている。 （ウ）本事業で整備された校舎等の学校施設が、児童・教員・住民代表によって維持管理され、きれいに保たれている。 学校清掃・トイレ研修会を実施し、ドンケオ村からは住民 21 名が、プーカン村からは 32 名が参加し、児童とともに学校や教室、トイレの清掃の仕方、手洗いの効果的な方法を学び、「学校清掃・トイレの維持管理スケジュール」を作成した（詳細は別紙 4-1 へ）。これにより、トイレや校舎の定期的な掃除、点検が決まった。また、供与した石鹼やタオル、掃除用具を用いて、手洗いの実践、教室内の掃除のレクチャーも実施した。以上により衛生面が改善された。 （エ）行政官が地方の小学校の問題点を理解し、助言をしている。 校舎完成まで、建設予定地の土地確認や調印式、着工確認、状況確認（30%確認、50%確認、70%確認、100%確認の 4 段階）を行った際は、毎回、郡教育事務所から教育行政官が同行し、住民や建設会社に助言を行った。さらに、双方の村において村長、校長、建設会社、そして郡教育事務所の教育行政官との関係構築と進捗確認を密に行うため、各学校の現場を観察するモニタリングを実施した。また、実施した学校運営研修会や学校清掃・トイレ研修会においても、教育行政官が教員や住民に学校運営、清掃スケジュールに、どの曜日に決めればよいか、どの程度の頻度で行えばよいか等助言し、教員と住民が一丸となって校内の清掃、衛生面の改善に取り組むよう、奨励していた。これらにより、教育行政官と住民、教員が、建設工程の共有だけでなく、現場が抱える課題を共有することができ、より良い関係が構築された。
（４）持続発展性	ドンケオ小学校、プーカン小学校において、教育行政官を含め、住民と教員が中心となり、学校運営計画や学校・トイレ清掃スケジュールを作成したことで、教員、村教育開発委員会、住民が郡教育事務所と協力し、校舎やトイレ、備品の維持管理が行われていく。また、モニタリングを通して、教育行政官との関係も構築され、郡教育事務所による、新校舎のフォローアップも計画されている。